

令和5年6月8日

言葉だよりNo.3 (第413号)

部活動を通して

陸上競技部 浅井

皆さんは、親や仲間たちに感謝していますか？

先日行われた県総体で、私は陸上競技の走幅跳びに参加しました。南予総体を終えてから、三瓶分校の兵頭先生・宇和高校の和家先生・清水先生のご指導の下、宇和高校の仲間たちと一緒に日々練習に励んできました。苦しい練習や辛い練習で心が折れかけたこともありましたが、仲間や家族に支えられ、なんとか練習をやり遂げることが出来ました。

いざ県総体が始まり、緊張が走るなか準会場でアップをし、試合に臨みました。走り幅跳びは1日目の一発目の競技でした。資格記録では、全体の中ほどの順位でした。一本目、ファールでした。二本目もまた、ファールでした。追い込まれた三本目。このままでは、記録無しになってしまう、三年間やってきたことが無駄になってしまうと思うと焦り、絶望しました。跳ぶ前に清水先生が、風の動きを読もう、など専門的なアドバイスをくださいました。清水先生のアドバイスで、冷静になり、自分のすべきことに集中することができました。そして、ついに三本目で自己ベストを出すことが出来ました。結果は24人中10位で四国大会には残念ながら進むことはできませんでした。しかし、自己ベストを出すことができ、自分の力を出し切ることができました。三年間部活動をしてきて、良かったと思います。7月に県の選手権に参加するので、県総体での経験や悔しさを生かして、さらに自己ベストを更新したいと思います。

私が、こうやって様々なことを体験し経験できるのも共に頑張ってきた仲間・先生方そして、今まで支えてくれた親のおかげだと思っています。ですが、それをしっかり伝えることはできていません。最後の大会が終わったら、伝えようと思います。皆さんも周りの人がしてくれることを当たり前だと思わず、親や仲間、先生方への感謝を忘れないようにしましょう。